

## カパル4年度間の総括：2018－21年度を振り返って

### 目 次

注記：この目次は、「カパル4年度間の総括」の内容が概観できるように「総括」本文 pp. 2-4にある目次をコピー・ペーストしたものである。

I	カパルで考えたこと・試みたこと	5
1.	カパルが目指すもの	5
2.	カパルの「精神」	6
3.	カパルの両輪：ウェブ発信と研究大会	7
1)	ウェブサイトと投稿・情報欄	7
2)	研究大会	8
3)	両輪の相補的關係	9
4.	理想と現実のあいだで	11
II	6つの担当分野をめぐる「思考」/「試行」と「錯誤」	13
5.	ウェブ発信（情報担当関連）について	13
1)	「端境期」とウェブ発信	13
2)	「投稿」という難題にどう向き合うか	14
3)	「インタビュー：先達・先輩と語る」：初心に戻る	15
4)	新しい投稿欄の提案：「フィールドこぼれ話」	17
5)	未検討の課題	18
6.	研究大会（大会プログラム担当・大会実行担当関連）について	19
1)	自由研究発表の減少傾向	19
2)	新たに導入された「応募用紙」とその書式	22
3)	「弾丸プレゼン」について考える	24
4)	弾丸プレゼンのプロモーション	25
5)	「応募用紙」書式に関わる提案	26
6)	「プログラム一覧」の復活を	27
7)	セッションの司会とカパルの多様性	28
8)	シンポジウムに関する確認事項：責任主体、企画者、謝礼、司会	29
(1)	シンポ企画の責任主体	29
(2)	これまでのシンポ企画者	29
(3)	リマインダーの必要性和重要性	30
(4)	シンポ企画責任主体としての大会プログラム担当：謝礼との関係	31

(5) シンポジウムの司会の位置づけ	31
9) 先達・先輩の経験と知見の有効活用	32
10) 大会プログラム新企画の提案：「先達・先輩は語る」	33
11) ウェブ「ギャラリー」の充実化	36
12) ハイブリッド開催の意義と課題	36
13) 運営委員サイドの負担軽減化をめぐる4つの選択肢	38
(1) 担当分野内委員の適正サイズの検討と必要に応じた委員の増員	38
(2) アウトソーシングないし外部委託	38
(3) 「サービス受益者」への負担要請	39
(4) 運営委員が提供する「サービス」の縮小	39
7. 総務について	39
1) 議事録などの管理と開示方法	39
2) メーリングリスト (ML) の更新と個人情報に含める内容	40
3) メーリングリストの管理と開示	41
4) インドネシア大使館・領事館との関係	42
8. 会計について	43
1) 会計の主たる任務：オンライン大会以前	43
2) オンライン開催後の会計の役割	43
3) 監査の実施方法と付随経費	44
4) カンパの過去の実績と今後の検討課題	44
9. ウェブサイト担当について	47
1) ウェブ閲覧をめぐるアクセス数の可視化の可能性	47
2) ウェブサイトの多言語化と多言語化がもたらす問題	47
(1) ウェブサイト多言語化の技術的側面	47
(2) 多言語化がもたらす問題	48
(3) ウェブ多言語化検討WGの設置？	49
3) ウェブサイト担当委員の適正数について	50
10. その他	50
1) 運営委員会をめぐる幾つかの検討事項	50
2) 研究大会における運営委員会報告とウェブへの掲載	51
3) ウェブ表紙右コラム下方の文言について	52
III カバルとカバル運営委員会の在り方をめぐって	52
11. カバルは学会か研究会か	52
1) 東南アジア学会、カバル、フィリピン研究会：類似と相違	54
(1) 東南アジア学会と理事会	54

(2) カパルとカパル運営委員会	54
(3) フィリピン研究会と全国フォーラム実行委員会	55
(3-1) フィリピン研究会の概要	55
(3-2) 研究会の活動実績：26回の全国フォーラムと4回の国際集会	56
(3-3) 常設運営機関を持たないフィリピン研究会	57
(3-4) フォーラム実行委員会はどのように選ばれるのか	59
2) 東南アジア学会、カパル、フィリピン研究会：「制度設計」の比較	61
(1) 東南アジア学会の「制度設計」	61
(2) カパルの「制度設計」	62
(3) フィリピン研究会の「制度設計」	62
(4) フィリピン研究会の歴史寸描	63
(5) フィリピン研究会：変わらないものと変わるもの	63
(6) カパルにとってのフィリピン研究会の意味	65

おわりに

66

添付資料集（別ファイル）

付録：今後のカパルの「制度設計」：まとまらないままに（別ファイル）

